

バロックから現代までカバーする新しい感性

PIANO EPOCH

佐藤祐介 ピアノリサイタル・シリーズ YUSUKE SATO Piano Recital Series

Vol.4 フランス音楽、時代の開拓者たち〜クーブラン一族、フランス6人組からの展開

2018年12月14日(金) ■ 東京オペラシティリサイタルホール

京王新線「初台」東口 徒歩1分(京王線相互乗り入れ都営新宿線にて新宿から2分)

19:00 開演(18:30 開場) ■ 全席自由 4,000円(当日4,500円)



予定曲目

- ルイ・クーブラン(ca.1626-1661)：クラヴサン曲集(ca.1658)より シャコンヌ ニ短調
フランソワ・クーブラン(1668-1733)：クラヴサン曲集 第4巻(1730)より 第26オールドゥル 嬰へ短調
アルマン・ルイ・クーブラン(1727-1789)：クラヴサン曲集(1751)より 悲嘆/ラ・デ・ボワジュルー
アントワーヌ・フォルクレ=ジャンバティスト・アントワーヌ・フォルクレ(ca.1671-1745)：クラヴサン曲集(1747)第1組曲 ニ短調 より クーブラン
フランソワ・ダジャンクール(1684-1758)：クラヴサン曲集(1733)第4オールドゥル ホ短調 より アルマンド/クーブラン
伊藤巧真(1987-)：クーブラン環(2018/委嘱新作)【世界初演】
ルイ・デュレ(1888-1979)：無言歌 Op.21(1919)
ジョルジュ・オーリック(1899-1983)：3つの牧歌(1919)より 第1曲
ジェルメーヌ・タイユフェール(1892-1983)：牧歌(1919)
フランシス・プーランク(1899-1963)：散歩 FP.24(1921/Rev.1952)より 第3曲 馬で/第6曲 バスで/第8曲 鉄道で/第9曲 自転車で
アルテュール・オネゲル(1892-1955)：7つの短い小品(1919)
ダリウス・ミヨー(1892-1974)：ピアノ・ソナタ第1番 Op.33(1916)
黒田崇宏(1989-)：タイトル未定(2018/委嘱新作)【世界初演】
中川俊郎(1958-)：入場曲、4つのカリカチュア、インヴェンション、退場曲(2018/委嘱新作)【世界初演】

[チケット情報]プレイガイド e+(イープラス) / <http://eplus.jp/> 東京オペラシティ チケットセンター / 03-5353-9999

お問い合わせ・電話予約 カメラータトウキョウ / 03-5790-5560 <http://www.camerata.co.jp>

フランス音楽と聞いて真っ先に思い浮かべるのは、やはりドビュッシーやラヴェル、サティなどではないだろうか。彼らがフランスの音楽史を変え、後世に影響を与えたことに疑うものはないが、私は何故か、彼らの影になってしまった作曲家たちに心を惹かれてしまう。彼ら以外にもフランスには時代の開拓者たちが存在しており、中でも特に重要な“クーブラン一族”と“フランス6人組”を今回は取り上げる。

第1部は、バロック時代に活躍した“クーブラン一族”と彼らへのオマージュ。

クーブラン家は大音楽家一族で、その中でも今年生誕350年のフランソワ・クーブランは大クーブランとも呼ばれ、通常クーブランと言えば彼を指す。叔父のルイは、プレリュード・ノン・ムジクレ(拍節のない前奏曲)を書いた初めての作曲家と言われており、甥のフランソワは独特な標題をつけたクラヴサン作品を生み出し、従甥のアルマン＝ルイはそのスタイルを受け継ぐなど、クーブラン一族は同時代の音楽家に多大な影響を与え、彼らを尊敬する者も多くいた。プログラムにある、同時代のフォルクレやジャダンクールが“クーブラン”というタイトルの作品を書いているのも、そうした敬意のあらわれであると言えるだろう。後世では、ラヴェルが彼へのオマージュとして「クーブランの墓」を書いている。

第2部は、1920年に評論家のアンリ・コレによって雑誌で紹介された“フランス6人組”。プーランクとミヨー以外には、一般的に馴染みのある作曲家は少ない。6人組は新古典主義の作曲家達だが、彼は共通の音楽的美学などは持っていない。6人での活動はとて短く「6人組のアルバム」(1920)を出版したり演奏会を開いたくらいである。その後、6人は独自の道を切り開き、特に、プーランク、ミヨー、オネゲルは現在でも評価が高い。個性の違う6人の作曲家が集まったことで互いが刺激し合い感化されたことで化学反応が起き、彼らの未来が変わっていったのではないだろうか。今回は6人組が紹介された1916年からアルバムが出版された1920年頃までの作品を演奏する。

また、このリサイタルのために、伊藤巧真氏にクーブランへのオマージュ、黒田崇宏、中川俊郎の両氏に6人組へのオマージュとして新作を書いていただく運びとなった。偉大な作曲家達へ、現在(いま)を生きる作曲家がどのようにアプローチをするのかを聴いてほしい。

佐藤祐介



佐藤祐介(ピアニスト) Yusuke Sato, pianist

福島県郡山市に生まれる。11歳より作曲、14歳よりピアノの本格的なレッスンを始める。15歳でリサイタルデビュー。日本唯一の現代音楽演奏コンクールである、第10回現代音楽演奏コンクール「競奏X」(朝日新聞社・日本現代音楽協会主催)において優勝を果たし、第22回朝日現代音楽賞及び聴衆賞を受賞し注目を浴びる。その他、2004年U.F.A.M.国際音楽コンクール第2位(フランス)、第3回三善見ピアノコンクール第1位及び三善作品特別賞、第9回チェコ音楽コンクール第1位、第12回フッベル鳥栖平和祈念ピアノコンクール第1位及び東洋新楽特別賞、など国内外での数多くの受賞歴を持つ。また、第15回浜松国際ピアノアカデミーを受講。イタリア、フランス、ドイツ、ルーマニアをはじめ、国内外での数多くのリサイタルに出演。バロックから現代まで幅広いレパートリーを持っており、これまで50曲以上の新曲初演に携わる。献呈・委嘱作品も数多い。演奏される機会の少ない作曲家や埋もれた作品にも光をあて、積極的に取り上げるユニークな活動を行っている。

また、レコーディングも積極的に行っており、カメラータトウキョウや299MUSICなどのレーベルからアルバムをリリース。レパートリーは、バロックから現代まで幅広く、バロックから新作までを取り上げたりサイタルシリーズ“PIANO EPOCH”を継続中。独自の視点をもった若手ピアニストの一人として、これからの活動が大きく期待されている。



伊藤巧真(作曲家) Takuma Ito, composer

福島県白河市生まれ。作曲を嶋津武仁、指揮を杉山洋一の各氏に師事。「秋吉台の夏」現代音楽セミナー&フェスティバルに参加し、湯浅譲二、杉山洋一各氏のマスタークラスを受講。これまでに、第29回現音作曲新人賞入選、第30回現音作曲新人賞及び聴衆賞、第17回東京国際室内楽作曲コンクール最高位、第11回カール・フォン・オシエツキー国際作曲コンクール(独/オルデンブルク)特別賞及びレパートリー推薦作、トロンボーンピース・オブ・ザ・イヤー2016作曲賞入賞、第14回千葉市芸術文化新人賞など国内外で受賞。現在、千葉県立幕張総合高等学校音楽教諭としてピアノを教えている。



黒田崇宏(作曲家) Takahiro Kuroda, composer

2014年3月に東京藝術大学音楽学部作曲科を卒業。
2017年3月に東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程作曲専攻を修了。
これまでに作曲を井元透馬、松下功、福土則夫、近藤譲、鈴木純明の各氏に師事。
第29回現音作曲新人賞(2012年)、第37回入野賞(2016年)などを受賞。



中川俊郎(作曲家) Toshio Nakagawa, compser

東京生まれ。桐朋学園大学作曲科卒業。
作曲を三善見、ピアノを末光勝世、森安耀子各氏に師事。武満徹主宰<Music Today '82>国際作曲コンクール第1位。1988年、村松賞受賞。2009年、サントリー芸術財団主催で「作曲家の個展2009、中川俊郎」が開催され、その成果に対して、第28回中島健蔵音楽賞受賞。CM音楽界においても受賞多数。これまでに歌手・作曲家の木村弓、邦楽囃子笛方の福原徹等ともコラボレーションを重ね、また2005年にTrp.曾我部清典、Bar.松平敬とともに結成した、「双子座三重奏団」の活動も注目されている。
現在、日本現代音楽協会副会長、日本作曲家協議会理事。お茶の水女子大学非常勤講師。

Discography

2018.12.25 ON SALE

ドウセク:「祈り」~ピアノのためのグランド・ソナタ

J.L.ドウセク

ピアノ・ソナタ第28番「祈り」へ短調 Op.77

ピアノ・ソナタ第29番 変イ長調 Op.5-3

12のレッスン Op.12 より II, XI

CMCD-28363 ¥2,800 +税

製造・発売元:(株)カメラータトウキョウ

NOW ON SALE

製造・発売元:299 MUSIC/Recording-Laboratory, LLC.



アンリミテッド

佐藤祐介(ピアノ)×平野義久(作曲)

NIKU-9001 ¥2,800 +税



パッヘルベルの幻影

佐藤祐介(ピアノ)

NIKU-9010 ¥2,800 +税



メッセージ

佐藤祐介(ピアノ)×中川俊郎(作曲)

NIKU-9018 ¥2,800 +税

これまでのPIANO EPOCH

- 2017年6月22日 Vol.1 ソナチネアルバム作曲家たち~その知られざる素顔
- 2017年9月22日 Vol.2 アメリカの音楽~古典から現代まで
- 2018年1月 9日 Vol.3 BACH一族へのオマージュ